

環境未来都市提案書概要(様式2)

目指すべき将来像【1. (1)】:  
 <2050年の京都>「歩くまち・京都」の実現  
 歩くことを中心としたまちと暮らしがもたらす「歩くまち・京都」を実現している。「歩くまち・京都」は、次のとおり、まちの活力と魅力を高め、健康にも環境にもやさしい京都の未来像である。  
 ア 創造し続けるまち イ 心ゆたかに住まうまち ウ しなやかな強さを持ったまち

① 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> 環境  
 <課題・目標> a)低炭素・省エネルギー  
 <取組方針>  
 ア 歩いて楽しいまちづくり  
 ・既存の公共交通を再編強化し、使いやすさを世界トップレベルにする[「既存公共交通」の取組]  
 ・歩く魅力を最大限に味わえるよう歩行者優先のまちをつくる[「まちづくり」の取組]  
 ・歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルに転換する[「ライフスタイル」の取組]  
 イ エネルギー地産地消都市づくり  
 ・省エネ・創エネ・蓄エネ技術の導入による分散型エネルギーマネジメント  
 ・グリーン・イノベーションの推進  
 ・歩行者中心のゼロエミッションパーク実現  
 ・地域力を生かしたライフスタイルの転換  
 ・防災まちづくりの推進  
 ウ 木の文化が育む低炭素都市づくり  
 ・森林の保全と地域産木材の多様な活用による需要供給サイクルの構築(森と木のまち京都創造)  
 ・農の営みや自然の恵みを生かした暮らしづくり(農力開発、自然の恵みの育成・活用)

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】  
 1 <<歩いて楽しいまちづくり>>

- 「歩くまち・京都」実現のための新たな取組
- a. 自動車流入抑制のためのロードプライシング導入に向けた社会実験の実施
  - b. 環境にやさしく京都のまちのシンボルとなるLRT・BRTの導入計画の策定
  - c. 「歩くまち・京都」公共交通センター(仮称)による公共交通の情報発信
  - d. 都心細街路における安全でゆとりのある歩行空間の創出(「歩くまち・京都」ゾーン(仮称))
  - e. 歩いてこそ京都・自転車プロジェクト

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】  
 2 <<エネルギー地産地消都市づくり>>

- 省エネ・創エネ・蓄エネ技術の導入による分散型エネルギーマネジメント
- a. エネルギーの共同利用施設によりコミュニティ活性化をもたらす「次世代エネルギーの井戸端」づくり
  - b. 公共施設等を拠点とする市民出資型協働発電の推進、自立分散型電源の確保
  - c. 岡崎地域に集積する公共施設等のエネルギーの見える化、省エネ運用(BAS/BEMSの導入)、太陽光発電、コージェネレーションシステム、ヒートポンプ等の導入、エリア内のエネルギーマネジメント
  - d. 糞尿・食品残渣から回収したバイオガスなど自然エネルギーを活用した「グリーンZOO」

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】  
 3 <<木の文化が育む低炭素都市づくり>>

- 森と木のまち京都の創造
- a. 木材ストック情報システムの整備
  - b. 市街地周辺三山における森林の保全整備
  - c. 木質ペレットの利用、路面材や道路付属物への活用促進
  - d. 特定建築物に係る地域産木材の利用義務化
  - e. CASBEE京都による地域産木材を利用した建築物の評価

② 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> 超高齢化対応  
 <課題・目標> g)地域の介護・福祉  
 <取組方針>  
 ・地域における既存ストックとICTを活用した課題解決サービスの提供と健康づくり  
 ・NPOや民間事業者等による拠点サービス運営と地域住民の運営参画による就労創出  
 ・臨床研究・治験環境の整備による先端医薬品、革新的医療機器、先端医療技術、健康科学等の研究開発の促進(国際戦略総合特区・関西共同申請)  
 ・地域コミュニティ活性化支援条例(仮称)に基づく取組による地域の自主的、自立的な地域運営の充実

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】  
 4 <<地域で支える健康都市づくり>>

- 地域における生活支援・ケアサービスの提供と健康づくり
- a. 商店街、市営住宅ストックを活用した地域コミュニティに資する活動の場の設置の支援
  - b. NPO法人や民間事業者等の運営主体創出、地域住民の参画による就労創出
  - c. ICTを活用した見守り、買物支援、省エネ、健康づくり活動サービス
  - d. 「地域包括ケアシステム」の基盤整備
  - e. ウォーキングや京都マラソンなどスポーツイベントの開催

③ 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> その他  
 <課題・目標> i)観光振興  
 <取組方針>  
 ・京都らしい歴史的景観を形成する文化的資産の適切な継承と創造的な活用等による、質の高い国際観光拠点としての機能強化(地域活性化総合特区申請)  
 ・世界の芸術家や文化人が自由に集い、学び、はばたく、国際的な芸術文化創造拠点の形成(地域活性化総合特区申請)  
 ・国内外の人々が快適に京都の魅力を堪能できる京都ならではの観光を支える基盤づくり

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】  
 5 <<日本文化の神髄に触れる観光都市づくり>>

- 国際観光拠点の形成
- a. 京町家をはじめとする文化的資産を保全・継承するための制度創設等
  - b. 京町家旅館等の整備促進
  - c. 文化的資産の活用や環境をテーマとしたMICE推進
  - d. 市内免税店等の普及促進
- 国際的な文化芸術創造拠点の形成

・ ・ ・ ・ ・
f.物流のモーダルシフトとEV化
「歩くまち・京都」総合交通戦略の着実な推進
a.「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発
b.都心主要道路における歩道拡幅(四条通, 東大路通)
c.観光地交通対策, パークアンドライドの通年実施
d.「スローライフ京都」大作戦(モビリティ・マネジメントの推進)
e.公共交通利用促進策を実施する建築物に対する駐車場付置義務台数の引き下げ
f.マンション等共同住宅でのカーシェアリングの普及促進

・ ・ ・ ・ ・
e.特定建築物への再生可能エネルギー利用設備の設置義務化
f.駐車場, 店舗等における充電設備の設置推進
グリーン・イノベーションの推進
a.産学公連携による研究開発拠点の整備と環境エネルギー分野の革新に資する研究開発の推進
b.都市油田・都市鉱山発掘事業
歩行者中心のゼロエミッションパーク
a.化石燃料車の流入抑制
b.観光地EVカーシェアリングの推進とEVバス運行
c.ICTを活用した小型電動モビリティ, レンタサイクルの導入
地域力を生かしたライフスタイルの転換
a.エコ学区など環境にやさしいライフスタイルを実践するエコ・コミュニティの形成
b.朝型生活への転換を推奨する「京朝(きょうあさ)スタイル」の推進
c.DO YOU KYOTO? クレジットの創出
防災まちづくり
a.木造密集市街地や細街路における地域のまちづくりの取組と連携した防災まちづくりの推進
b.防災と環境に配慮した学校施設・設備の整備

・ ・ ・ ・ ・
f.「平成の京町家」の普及促進
g.京町家などの伝統的な木造建造物の保存活用に関する条例制定
h.景観政策の推進
農力開発
a.都市農園制度の創設や農地等を利用した環境保全・防災機能の向上
b.人材育成・6次産業化支援・情報発信のための拠点の設置
c.就農希望者や市民の農力育成と農育・花育の推進
d.時待ち食キャンペーンや歩いて訪ねる京野菜観光の推進
e.五感で感じる農業・流通・食の拠点整備
自然の恵みの育成・活用
a.京都みつばちガーデン事業
b.鴨川の天然アユ復活事業

・ ・ ・ ・ ・
臨床研究・治験環境の整備
a.医薬品, 医療機器, 先端医療技術等における研究, 開発から実用化への支援環境の整備
地域コミュニティ活性化推進条例に基づく取組
a.地域コミュニティサポートセンターの設置
b.地域コミュニティ活性化支援助成制度(仮称)の創設
c.町内会・自治会等の活動状況等に関するデータベースの作成

・ ・ ・ ・ ・
a.ほんものの文化・芸術を学ぶ場の提供
b.本格的な京料理の世界への発信
c.海外からの映画撮影誘致やコンテンツ分野での人材交流促進
京都ならではの観光を支える基盤づくり
a.京都どこでもインターネット・安心救急ステーションの整備
b.多言語対応コールセンターの開設
c.携帯GPS機能を活用した観光・交通案内情報の発信
d.歩いてこそ京都・自転車プロジェクト(再掲)
e.多言語観光案内標識のアップグレード

複数の課題・目標を一体的に進める事項(相乗効果や副次的効果についての簡単な解説を含む)【1.(3)①】

・<「①環境(低炭素・省エネ)」,「②超高齢化(介護,福祉)」>

歩行者優先のまちづくりや歩くことを楽しむライフスタイルへの転換と,ICT連携による歩数計等のバイタルデータを活用した健康づくり支援サービスの実施とにより,更なる健康の保持増進を促す効果をもたらす。

地域で創出し共同利用する地産地消のエネルギーを活用し,地域拠点でのICTを活用した生活支援・ケアサービスを実施することにより,平常時,非常時ともに,健康で環境にやさしく,安心安全な暮らしの実現や地域コミュニティの強化をもたらす。

まちなかでの農の営みや生物を育むコミュニティの活動を通じ,地域の絆の強化や高齢者の生きがい,健康の保持増進をもたらす。

・<「①環境(低炭素・省エネ)」,「③その他(観光)」>

歩行者優先のまちづくりや歩くことを楽しむライフスタイルは,京都の魅力を五感で堪能できる観光スタイルを促すとともに,公共交通利用へのシフトを通じた交通渋滞解消などの利便性向上や,ゆっくり歩くことを楽しむことによる賑わい創出や観光業の振興につながる効果をもたらす。

市民や国内外から多くの観光客が集まり,エリア全体で最先端のスマートコミュニティを体感できる岡崎地域において,エコとエネルギーの意識・行動の変革と同時に観光地としての更なる魅力向上をもたらす。

地域産の農作物や天然の食物を活用した特産物やブランド商品等の新たな観光資源の開発をもたらす。

・<「②超高齢化(介護,福祉)」,「③その他(観光)」>

国籍,年齢,性別,障害の有無等にかかわらず,誰でも,いつでも,安心安全で快適な観光ができることによる市民生活の向上や,観光ボランティアなど市民が京都観光の新たな主体として活躍することを通じ,子どもから大人まで生涯にわたっていきいきと活動できる社会環境をもたらす。